

令和元年度 名古屋市におけるセアカゴケグモの生息状況調査について

○^{ちだにたかみ}智谷尊史、野々川真美子、山下彩華、大橋正明、伊藤誠委子、
三輪利宏、土井恵美子、伊藤靖之（生活衛生センター）

1 目的

名古屋市港区でセアカゴケグモが大量に発見されてから 10 年経ち、環境への馴化も進んでいると予想される。そこで現在の名古屋市でのセアカゴケグモの生活環を知るための調査を行い、セアカゴケグモの効果的な駆除時期や方法を考える一助とする。なお、本調査は昨年度から継続しての実施である。

2 調査期間

平成 31 年 4 月から令和 2 年 2 月まで

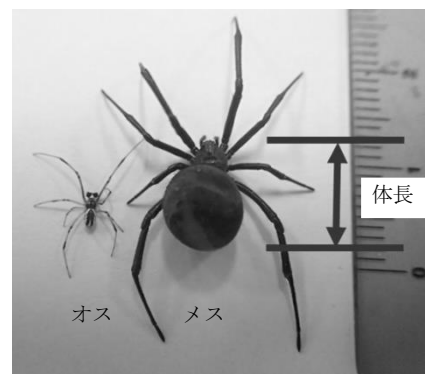
3 調査方法

港区内の公園で、セアカゴケグモの生息が疑われる場所（ベンチ、グレーチング、遊具など）を点検し、見つけたセアカゴケグモを捕獲した。調査は月 2 回、数名の調査員で行い、調査時間が合計で 120 分となるように実施した（例えば、調査員 3 名なら調査時間は 40 分）。調査場所については、同じ地点で調査を行うと捕獲圧が働くため、調査ごとに公園を変更した（全 22 公園）。

なお、調査公園の時期ごとの割り当てについては、昨年度実施した結果を踏まえ、捕獲数の多かった公園を月の前半に、少なかった公園を月の後半に実施することで、季節による変化以外に各公園での広さや設備の違い等が捕獲数に与える影響も併せて検討することとした。

発見したセアカゴケグモはメス、オス、幼体、卵のうに分け、メスについては体長を測定した。卵のうは、個数ではなく巣に対しての有無を記録した。

尚、発見したセアカゴケグモ及び卵のうは全て駆除し、巣については取り除いた。



4 結果および考察

(1) 捕獲したセアカゴケグモについて

本調査では雌雄の判別ができない個体（体長はおおむね 1mm 程度）を幼体とした。

調査期間中、体長 2mm～11mm のメス、幼体、オスと卵のうが観察された。メスについて、卵のうと一緒に観察された個体は、6mm の個体 1 頭を除いては 7mm 以上であった。本調査では、昨年同様 7mm 以上の生殖能力がある個体を成体、6mm 以下の生殖能力は見受けられない個体を亜成体とした。

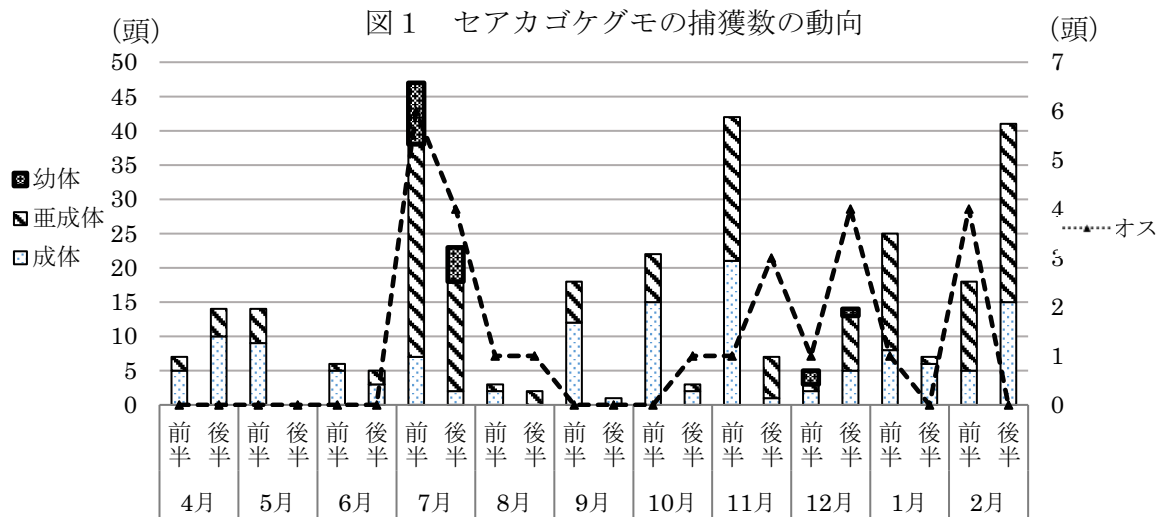
(2) セアカゴケグモの捕獲数の動向について

セアカゴケグモの捕獲数の動向を図 1 に示した。

今回の調査では、メスの成体の捕獲数のピークは 11 月前半であったが、季節によらず年間を通して発見された。

メスの亜成体、幼体とオスについては、7 月前半に最も多く捕獲された。7 月は前後半とも亜成体や幼体が 6 月までと比較して大きく増えていることから、6 月あたりから産卵・繁殖期が始まっていると推察される。また、メスは 2～3 ヶ月で幼体から成体へと成長するとされているが、11 月前半やそれ以降にも亜成体が多く発見されており、7 月頃の幼体・亜成体がその後成体となって産卵しふ化したものと予想される。

今回の調査では、前述のとおり昨年度の結果を踏まえ、捕獲数の多かった公園を月の前半に、少なかった公園を月の後半に実施したが、その月ごとに比べて 4 月、12 月と 2 月以外は前半の方が後半より捕獲数が多く、その差が大きい月（9 月～11 月）もあったので、公園によって、セアカゴケグモの定着のし易さに差があることが考えられる。



(3) 発見場所について

セアカゴケグモの発見場所については、側溝のグレーチングが最も多く、次いでベンチであった(図2)。公園においては、グレーチング及びベンチが主要な営巣・繁殖場所になっていると考えられる。

グレーチングはどの公園にもあり設置箇所が多い。今回の調査において、捕獲数の多かった7月前半、11月前半や2月後半に実施した公園では主にグレーチングで多数捕獲された。しかし、すべての公園のグレーチングでセアカゴケグモが見つかるわけではなく見つからない場所もあった。

グレーチングで多数捕獲された理由として、セアカゴケグモの巣は不定形で落ち葉や虫の死骸を巻き込んだ3次元構造をしているが、下部の側溝には適度な空間があり、そこに落ち葉が少し溜まっていたり雑草が生えていたりすると、餌となる虫も往来することから良好な営巣場所になっているためと考えられる。見つからなかった場所については、落ち葉や雑草が全くないことで餌となる虫が少ないためや、逆に落ち葉や砂などで側溝がほとんど埋まっていて営巣するのに十分な空間がないためと推察される。

ベンチについては、営巣に必要な空間がある脚部の上部分や座席の裏で主に捕獲された。グラウンドなどの土の上で雑草が近くに生えている所に置かれているベンチは、餌となる虫が巣の近くにいると思われ、コンクリートやタイルの上に置かれているものよりも良い営巣条件となっていると推察される。

上述のように、グレーチングでは側溝の状態、ベンチでは設置場所の違いが、セアカゴケグモの定着のし易さの差の一因であることが推察され、今回の調査では同時期の捕獲数に差が生じた要因の一つと考えられる。

5 まとめ

本調査の結果より、咬まれる恐れのあるメスの成体のセアカゴケグモは冬期でも発見されていることから、ベンチなどの触れやすい設備を使用する際は、年間を通して注意が必要である。

また、セアカゴケグモの産卵・繁殖時期は6月頃からと推察され、公園での管理状態や設置状況によって差は見られるものの、グレーチングやベンチが主要な営巣・繁殖場所となっていることが分かった。

防除には、繁殖時期の前に施設内のグレーチング(側溝を含む)やベンチ、その他遊具を含む類似の人工構造物を中心に重点的に点検駆除を行い、その後も定期的に点検を行って、セアカゴケグモが定着しないように生息密度を下げるのが重要であると考えられる。

図2 セアカゴケグモの発見場所

